

# 感染症についてのお知らせ

墨田区保健所 保健予防課 感染症係 区役所 3階  
電話 03-5608-6191(直通) FAX 03-5608-6507

令和5年  
7月号



## 東京都内の感染症流行情報

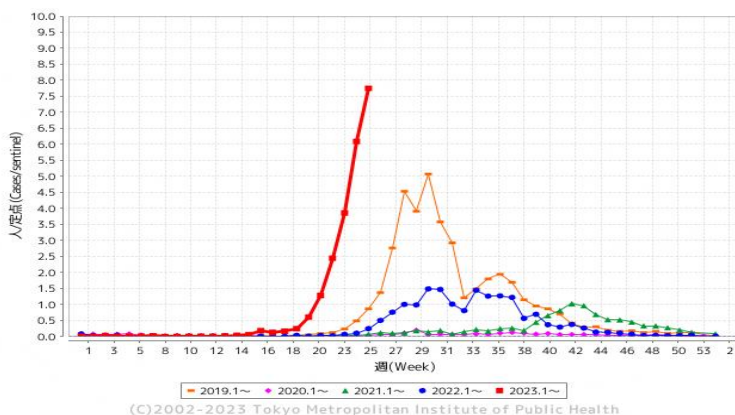
第25週（6月19日～6月25日）の流行情報

- ・ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は、7.75人で警報基準を超えました。
- ・インフルエンザの定点あたり報告数は、1.00人で、前週と比較して減少傾向です。

## ヘルパンギーナが流行しています

### ヘルパンギーナってなに？

ヘルパンギーナとは、コクサッキーウイルスA群が主な原因となるウイルス性咽頭炎の一種で、発熱と喉の奥に出現する水疱性（すいほうせい）の粘膜疹（ねんまくしん）が特徴です5月～8月にかけて多く発症し、夏風邪として代表的な病気です。1歳から5歳までの乳幼児がよくかかります。



## 病気の特徴

2～4日の潜伏期の後、突然の高熱（38.5～40℃）、咽頭痛や咽頭発赤を呈し、口腔内に水疱や発赤が現れます。水疱は破れて痛みも伴います。2～4日で解熱し、7日程度で治癒します。高熱による倦怠感や口腔内の痛みなどから、食欲不振や不機嫌になったり、よだれが多くなることもあります。食事や水分を十分にとれず、脱水になることもあります。

合併症としては、熱に伴う熱性けいれんと、頻度は少ないですが、髄膜炎（むきんせいずいまくえん）や脳炎があります。合併すると頭痛、嘔吐（おうと）、意識障害などが出現します。また、急性心筋炎はせき、呼吸困難、心不全症状、不整脈等の症状が出現します。無菌性髄膜炎や脳炎、急性心筋炎は入院治療が必要となります。

## 原因・予防法・治療法

ヘルパンギーナにかかった人の咳やくしゃみ、つばなどのしぶきに含まれるウイルスによって感染します（飛まつ感染）。また、水疱の内容物や便に排出されたウイルスが手などを介し、口や眼などの粘膜に入って感染します（経口・接触感染）。

アルコールを含む消毒液が効果がでにくいいため、感染予防には、**感染者との密接な接触を避けることやせっけんでの手洗い**などが大切です。

治療は対症療法が中心となります。発熱や喉の痛みが辛いときは鎮痛解熱剤を使用します。食欲不振によって脱水症になれば経口補水液や点滴が必要な場合もあります。

## 対処法・家庭でのケア

水分補給が充分かどうか注意して様子を見てください。頻回の嘔吐（おうと）、呼んでも返事をしない、けいれん、ひどくぐったりするなどのときは救急対応が必要です。

脱水症になりやすいので、水分補給に心がけてください。食事は、刺激の強いもの、固いものは喉の痛みが強くなるので避けて、柔らかい、甘い、冷たいものなど口当たりの良いものをこまめに与えるようにしてください。

# 腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

## 病気の特徴

腸管出血性大腸菌による感染症です。代表的なものにO157、O26、O111などがあります。腸管出血性大腸菌は感染力が強く、乳幼児や高齢者が感染した場合は重症化しやすいといわれています。2～9日ほどの潜伏期を経た後に、激しい腹痛を伴う下痢、続いて血便をおこします。また、約5%が溶血性尿毒症症候群や脳症などの合併症を起こすといわれています。なお、個人により感染しても発症しない場合もあります。

## 感染経路・予防

感染経路は経口感染です。菌に汚染された食品等を喫食することにより感染します。人から人への感染の場合には、患者の便や菌のついたものに触れた後、手洗いを十分にしなかった場合などに感染を起こす可能性があります。

予防のポイントは食べ物の取り扱いと正しい手指衛生です。

汚染食品からの感染が主体であることから、**食品を十分加熱したり、調理後の食品はなるべく食べきる**等の注意が基本です。

とくに乳幼児、高齢者などは重症事例を防止するため、特に生肉又は加熱不十分な食肉を食べないように配慮する必要があります。

また、ヒトからヒトへの二次感染を予防するために、食事前やトイレ後に**石鹸と流水による手洗い**を行うことが重要です。また、**菌に汚染した可能性のある場所は、アルコールを含む消毒液**等を用いて、適切に消毒することが必要です。

## 治療法

水分補給に加え、下痢に対する整腸剤の使用などの対症療法が中心になります。

## 学校保健法の取り扱い

学校保健安全法では第三種の感染症に指定されており、「病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで」を出席停止の期間の基準としています。

なお、保育所においても学校保健安全法に準じた対応を行います。

## 新型コロナウイルス感染症について ～感染防止対策の継続が大切です～

令和5年5月8日より、新型コロナウイルス感染症が5類感染症になりました。発熱等、症状が出たときの対応や療養期間、ワクチン接種等に関する情報は、墨田区ホームページをご確認ください。



墨田区ホームページ→



このお知らせは、東京都感染症情報センター (<https://idsc.tmph.metro.tokyo.lg.jp/>) の情報及び東京都健康安全研究センターが集計を行った「東京都感染症発生動向調査週報」 (<https://idsc.tmph.metro.tokyo.lg.jp/weekly/>) の情報をもとに作成しています。